

令和2年度Sport in Life推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

アーバンスポーツを活用した
スポーツ実施率向上のための実証実験
一般社団法人さいたまスポーツコミッション

2021年2月12日



1. 事業の実施概要

事業概要

子育て世代が親子で楽しめるような「アーバンスポーツ」のコンテンツを提供する事業である。

アーバンスポーツに気軽に親しむことができるレンタルパーク事業や、トッププレイヤーによる実演や講習を受けられる体験教室を実施することにより、自由で気軽に身近な「体験場所」と「体験機会」を提供する。

実証フィールド

さいたま市浦和美園地区

代表団体

一般社団法人さいたまスポーツコミッション

構成団体

- ・さいたま市役所
- ・一般社団法人CHIMERA Union



ターゲット

【メイン】ビジネスパーソン（20代後半から40代前半の既婚男性：父親） 【サブ】子ども（未就学児～小学校低学年）

➤ ビジネスパーソンにとって、運動・スポーツをする「時間がとれない」、「きっかけが無い」、「気軽に活動できる場所が無い」ことがスポーツ実施を妨げる要因となっている一方で、コロナ禍において、子育て世代の男性の「家事・育児」に費やす時間が増加している。

プロジェクト 実施内容

A) レンタルパーク事業：自由で手軽で身近な体験場所
浦和美園地区の高架下「3か月間」期間限定のパークを設置
「美園駅北陸橋高架下」という未利用地をアーバンスポーツで活用

- 【対象】：子育て世代の親子（ターゲットのとおりのり）
【内容】：参加者はエリア内を自由に利用可能（講師なし）
【期間】：令和2年10月から12月までの土日祝日：全22日
【種目】：① キックバイク／BMX
② ブレイクボード／スケートボード
③ インラインスケート ④ 3X3
【料金】：アンケートへの回答を条件に参加費「無料」
【貸出】：各種コンテンツやプロテクターセットを無料貸出



B) 体験教室事業：自由で気軽に身近な体験機会
浦和美園で講師付きのアーバンスポーツ体験教室を「3回」開催

- 【対象】：子育て世代の親子（ターゲットのとおりのり）
【内容】：各種目の講師を招き、「実演」と「講習」を実施
【期間】：令和2年10月から12月まで月1回：計3回
◇ **親子で、する！みる！**【スポーツへの興味・関心を高める】
【1回目】インラインスケート、フリースタイルバスケットボール
【2回目】スケートボード、フリースタイルフットボール
【3回目】BMX、フリースタイルバスケットボール、フリースタイルフットボール、3X3（さいたまブロンコス）
【その他】3X3（さいたまブロンコス）



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果

効果検証の概要

ターゲット	検証内容（目標）	実績	効果検証方法
大人（父親）	① 週1日以上スポーツ実施率（目標:85%） ② スポーツ未実施者の実施意欲の増加 ③ プログラム参加後の家事時間の増加	・ 週1日以上スポーツ実施率は「90.5%」 ・ 未実施者のうち「93.8%」が増加意向を示す ・ 「38.1%」が家事時間が増加したと回答	① 事後アンケート調査結果での把握 ② 事前、当日アンケートの紐づけによる把握 ③ 事前、事後アンケートを紐づけて差を計測
子ども	① スポーツをより好きになったか（目標:85%） ② スポーツ時間が増えると思うか	・ 「92.0%」が「より好きになった」と回答 ・ 「87.6%」がスポーツの時間が「増える」と回答 ・ 「95.9%」が「楽しかった」と回答	① 当日アンケート調査結果での把握 ② 当日アンケート調査結果での把握

効果検証の結果

メイン

A) 「事後アンケート調査」にて、「90.5%」の父親が「週1日以上」スポーツを実施していると回答した。

B) 「事前アンケート調査」にて、スポーツの実施頻度が、週1日未満であった者（スポーツ未実施者）のうち、「93.8%」に対して、今後の「スポーツ実施意欲」を向上させるプログラム内容になった。

C) プログラムに参加した父親のうち、プログラム参加後、「38.1%」の父親が「家事時間が増加した」と回答し、家庭での父親の家事時間の増加に貢献した。

① スポーツ実施率【事後】

頻度	割合
週に1日以上	90.5%
週に2日以上	31.0%
週に3日以上	19.0%
週に5日以上	4.8%
わからない	2.4%
月に1日未満	0.0%
月に1〜3日	7.1%

n=42

② スポーツ未実施者の実施機会増加意向

意向	割合
増えると思う	64.9%
やや増えると思う	28.9%
どちらともいえない	5.2%
あまり増えると思わない	0.0%
増えると思わない	1.0%

n=98

③ 家事時間【「事後」と「事前」】の差を算出】

変化	割合
増加(+4)	2.4%
増加(+3)	2.4%
増加(+2)	11.9%
増加(+1)	21.4%
変わらない	42.9%
減少(-1)	11.9%
減少(-2)	4.8%
減少(-3)	2.4%

n=42

サブ

D) プログラムに参加した子ども（未就学児から小学校低学年まで）のうち、「92.0%」に対して、スポーツが「より好きになった」と思ってもらうことができた。

E) 「87.6%」の子どもたちに、スポーツ実施意欲を向上させるプログラム内容となった。

F) 「95.9%」の子どもたちが「楽しかった」と回答してくれたことから、アーバンスポーツが多くの子どもたちに受け入れられ、改めて親子で一緒に楽しさを体感できるコンテンツであることがわかった。

④ 体験をきっかけにスポーツがより好きになったか

意向	割合
そう思う	73.9%
ややそう思う	18.1%
どちらともいえない	6.5%
あまりそう思わない	1.0%
そう思わない	0.5%

n=769

⑤ 体験をきっかけにスポーツの時間増えると思うか

意向	割合
そう思う	59.7%
ややそう思う	27.9%
どちらともいえない	10.8%
あまりそう思わない	1.0%
そう思わない	0.5%

n=770

⑥ 体験したスポーツは楽しかったか

意向	割合
そう思う	82.7%
ややそう思う	13.2%
どちらともいえない	3.0%
あまりそう思わない	0.8%
そう思わない	0.4%

n=767

スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	阻害要因	促進要因	検証結果
大人（父親）	【スポーツ実施阻害要因】 ① 時間がとれない ② きっかけが無い ③ 気軽に活動できる場所がない	【スポーツ実施促進要因】 ① 日常の家事・育児時間を活用 ② 子どもたちのスポーツに対する興味・関心の高さ	- スポーツ実施障壁に対して、「場所」、「時間」を解決する評価が高い - 費用負担、アクセスといったインフラ条件のほか、子どもの意志も参加を誘因 - 同条件事業での費用負担許容金額はA事業1,272円、B事業1,805円 - アーバンスポーツの体験における成功体験が楽しさのポイントとなっている - 子どもたちの成功体験の提供により、促進要因がより強い効果を示した
子ども			

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

メイン

A) アーバンスポーツにより解決を期待されているスポーツ実施阻害要因については、「場所や施設がない」、「仕事や家事が忙しい」が上位を占めている。今回のターゲットが抱える阻害要因の解決するために、アーバンスポーツが効果的な要因となることがわかった。

B) 参加理由の上位である「費用負担が少ない」、「アクセスが良い」については阻害要因の「②きっかけが無い」、「③気軽に活動できる場所がない」に効果的なアプローチになったことを示しており、「子どもがやりたがっていた」は促進要因の効果を示すものである。

C) 仮想的市場評価法（CVM）による同条件事業の事業性調査を実施したところ、大人1名／子ども1名（1時間）で、「アーバンスポーツ会場」の利用許容金額は「1,272円」、「アーバンスポーツ教室」は「1,805円」という結果を示した。今後、利用許容金額をもとに継続的な事業推進の方法を模索する。

D) 子どもたちが「楽しかった」と回答した理由について、「上手にできた」、「褒められた」が上位にきており、アーバンスポーツの体験による「成功体験」が、子どもたちの実施意欲を向上させる要因となっていた。

①

アーバンスポーツなら解決できると思うこと（複数回答）

0100150200250

場所や施設がない234

仕事や家事が忙しい120

指導者がいない81

子どもに手がかかる57

お金に余裕がない50

仲間がいない39

面倒くさい34

年を取った30

運動・スポーツが嫌い30

運動・スポーツ以上に大切なことがある8

病気やけがをしている7

生活や仕事で体を動かしている7

②

プログラムに参加した理由（複数回答）

050100150

費用負担が少ない132

子どもがやりたがっていた130

アクセスが良い120

子どもとのコミュニケーション65

準備が楽56

もともと関心があった47

空いている時間つぶし16

運動不足の解消7

友だちづくり1

仮想的市場評価法による事業性分析

アーバンスポーツ会場

【仮想レンタルパーク事業】

(大人1人／子ども1人)

1,272円

アーバンスポーツ教室

【仮想体験教室事業】

(大人1人／子ども1人)

1,805円

③

体験したスポーツが楽しかった理由（複数回答）

0100200300400500600

じょうずにできた511

ほめられた277

せんせいがやさしい211

からだがきつくない131

いろんなわざがある102

ともだちができた8

サブ

事業継続や横展開に向けたポイント、課題	◆ 特定の種目に限定しない／競技志向に特化しない【ポイント】 本事業の企画コンセプトは「親子で一緒にスポーツをする“場づくり”を行うこと」であり、いかに子育て世代の親子の興味を惹いて、自由で気軽に身近な体験場所・機会を提供できるかを重要なポイントとしていた。また、アーバンスポーツは五輪正式種目に採用されたとはいえ、依然として「新しいスポーツ」であることから、競技人口は少なく、初めてアーバンスポーツに触れる層が大部分を占めている。 そのため、本事業はアーバンスポーツのうち特定の種目に限定することや競技志向に特化することはせず、可能な限り、間口を広げることで、参加者に「初めてアーバンスポーツを体験する場所・機会」を提供することができたことが、多くの市民のスポーツ実施率向上に寄与した。 ◆ 行政の理解や協力【課題】 今回の実証実験では、「①コロナ禍でのスポーツ実施率向上」及び「②高架下や調節池といった未利用地の活用」という点で大きな結果を得ることができたことから、本事業は「未利用地利活用モデル」として事業の継続性や展開可能性を見出すものであったと考える。 ただ、アーバンスポーツという競技の特性上、市街地や都市公園内では敬遠される傾向が強く、行政側の理解や協力は必須であることから、今後の横展開に向けては、今回の結果が材料となり、いかに多くの自治体の理解や協力を得られるかが課題となる。 ◆ スピード感をもった横展開によるビジネスモデルの確立【課題】 今回の実証実験を通じて、本事業に対する参加者の「利用許容金額」を把握することができたことから、今後、採算性を重視したアーバンスポーツ活用のビジネスモデルとして、民間事業者による事業継続の可能性を検討することが可能となった。 そのため、今後の事業継続に向けては、行政主導・民間主導問わず、いかにモデル事業としてスピード感をもって多くの実証件数を確保し、アーバンスポーツ活用のビジネスモデルを確立させることができるかが課題となる。
次年度以降の事業継続、横展開の計画	◆ 市内未利用地の活用 さいたま市内には、今回の実証フィールド以外にも多くの同一環境の未利用地が存在しており、次年度以降は、市内の他の未利用地を調査・研究し、同一ターゲットでの横展開の可能性を模索していく。 ◆ オリンピックレガシーとしてのアーバンスポーツの推進 アーバンスポーツは、さいたま市開催予定種目の「バスケットボール」や「サッカー」に関連したコンテンツを含むため、市民の東京2020大会に対する関心を高め、機運醸成の一助となるソフト事業の実施を検討している。
今後の事業展開に向けて期待されるSport in Lifeプロジェクトにおける取組	◆ スポーツ庁「地域振興担当」との連携 アーバンスポーツを活用した事業を展開していくにあたり、現在、スポーツ庁地域振興担当にて実施している「アーバンスポーツツーリズム研究会」と「Sport in Life推進プロジェクト」の連携を期待している。アーバンスポーツツーリズムの考え方において、競技としての諸課題が議論されているなかで、アーバンスポーツを健康スポーツとして推進する視点は必要不可欠であり、アーバンスポーツという新しいスポーツを地域に根付かせるためにも、「Sport in Life推進プロジェクト」レベルの横断的な取組が求められていると考えている。 ◆ コロナ禍での「新しいスポーツの実践様式」の提唱 ウィズコロナ・アフターコロナの時代のスポーツの推進には、これまでの国民の価値観とは異なった視点が必要となり、ひとりで・自由に・手軽にできるアーバンスポーツの活用可能性は大きく広がっていくと考えている。また、アーバンスポーツ以外にも、コロナ禍であるがゆえに脚光を浴びるスポーツ競技は数多く存在しており、「Sport in Life推進プロジェクト」として、新しいスポーツの実践様式提唱を期待している。